

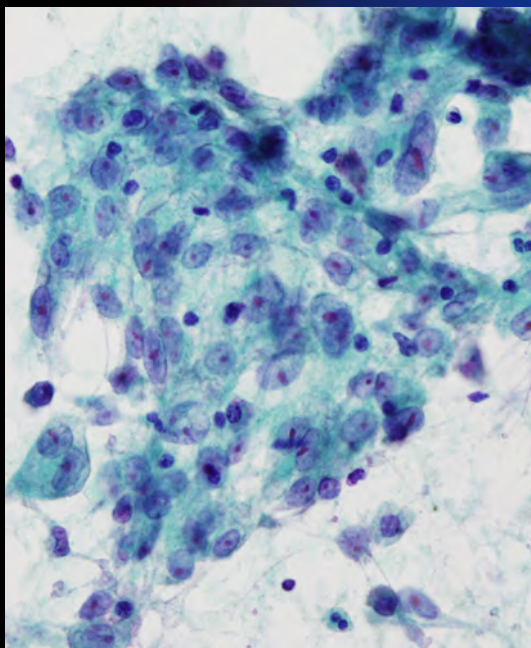
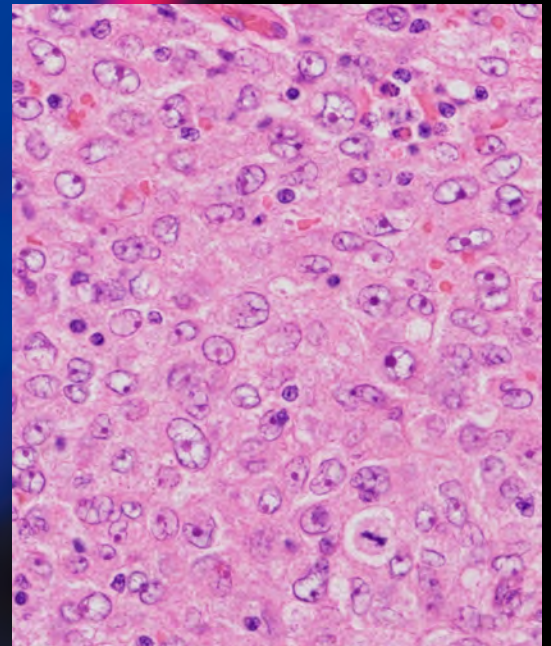
ONLINE ISSN 1882-7233
PRINT ISSN 0387-1193

日臨細胞誌
J.Jpn.Soc.Clin.Cytol.

第58巻 第6号 令和元年11月

日本臨床細胞学会雑誌

THE JOURNAL
OF THE JAPANESE
SOCIETY OF CLINICAL
CYTOLOGY



公益社団法人
日本臨床細胞学会

<http://www.jscc.or.jp/>

Vol.58 No.

Nov. 2019

6

目 次

巻頭言	矢納 研二
〈原 著〉	
LBC 法を用いた体腔液検体の細胞学的検討	兵庫医科大学病院病院病理部 中西 昂弘・他 (231)
乳腺 solid papillary carcinoma の細胞学的検討 —— Invasive ductal carcinoma, solid type との比較を中心に ——	山近記念総合病院病理検査室 大久保美沙・他 (241)
トリノ基準に則った甲状腺低分化癌の再検討 —— トリノ基準は低分化癌の細胞診断に影響を及ぼすか? ——	野口病院病理診断科 丸田 淳子・他 (249)
〈調査報告〉	
定点観測による細胞診検体に関するアンケート調査の集計報告	公益社団法人日本臨床細胞学会地域連絡委員会委員 古旗 淳・他 (256)
〈症 例〉	
頸部リンパ節に発生した濾胞樹状細胞肉腫 follicular dendritic cell sarcoma の 1 例	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院中央検査室 玉城 真太・他 (266)
細胞診により子宮頸部大細胞神経内分泌癌を推定した 2 例	鳥取大学医学部産科婦人科 小作 大賢・他 (272)
膀胱原発形質細胞様型尿路上皮癌の 1 例	日本赤十字社医療センター病理部 夏目 愛子・他 (279)
総目次	(284)
索引用語	(288)
投稿規定	(290)
編集委員会	(297)

＊

〈表紙写真〉

濾胞樹状細胞肉腫

(左: パパニコロウ染色, 右: H-E 染色) (玉城 真太・他, 左: Photo. 1B, 267 頁, 右: Photo. 3B, 269 頁)

CONTENTS

Editorial.....Kenji Yanoh

Original Articles

- Comparative analyses between conventional Papanicolaou smear method and the liquid based SurePath method in body cavity fluid cytology
Takahiro Nakanishi, et al. (Dept. of Surg. Path., Hyogo College of Med. Hosp., Hyogo)(231)
- Cytological characteristics of solid papillary carcinoma of the breast
—Comparison of invasive ductal carcinoma, solid type—
Misa Okubo, et al. (Dept. of Path., Yamachika Memorial Hosp., Kanagawa)(241)
- Impact of the new 2017 WHO classification on the cytodiagnosis of poorly differentiated thyroid carcinoma
Junko Maruta, et al. (Dept. of Diag. Path. and Cytol., Noguchi Thyroid Clin. and Hosp. Foundation, Oita)(249)

Investigation Report

- Aggregated results of a questionnaire survey about cytology specimens conducted by a fixed-point observation
Atsushi Furuhata, et al. (Committee of Regional Connection, Japanese Society of Clin. Cytol., Tokyo)(256)

Clinical Articles

- A case of nodal follicular dendritic cell sarcoma of the neck
Shinta Tamashiro, et al. (Dept. of Clin. Lab., Japan Community Health care Org. (JCHO) Kyushu Hosp., Fukuoka)(266)
- Presumptive diagnosis of large cell neuroendocrine cervical carcinoma based on cervical cytology
—A report of two cases—
Daiken Osaku, et al. (Dept. of Obst. and Gynecol., Tottori Univ. Faculty of Med., Tottori)(272)
- Primary plasmacytoid urothelial carcinoma of the urinary bladder—A case report—
Aiko Natsume, et al. (Div. of Path., Japanese Red Cross Med. Center, Tokyo)(279)

- Index of Contents.....(284)
- Index of Key words.....(288)
- Notice to contributors.....(290)

Cover Photo

- Follicular dendritic cell sarcoma
(Left : Pap. stain, Right : H-E stain) (Shinta Tamashiro, et al., Left : Photo. 1B, p267, Right : Photo. 3B, p269)



巻頭言

Kenji Yanoh

矢納研二

JA 三重厚生連鈴鹿中央総合病院産婦人科

▶ 編集委員長就任の挨拶



現在、日本臨床細胞学会雑誌は、いくつかの問題に直面している。本誌の担う役割は、前号（第58巻第5号）で佐藤新理事長が述べられたとおり、「細胞診に関する情報を発信する」ことである。そのためには、科学的価値と質の高い論文を多数掲載し、学会会員の知識や技術の向上に寄与することが重要である。その実現のためには、学会会員が、一人でも多く、科学的価値の高い臨床研究を行ったり、極めて稀であったり、科学的価値の高い症例を経験し、本誌に論文を投稿して頂くことが望ましい。また、投稿される論文が、しっかりとした日本語の文法に裏付けられ、論文としての体裁が完成されていることも必要である。それに加えて、十分な投稿論文の受け入れ態勢の整備も重要である。しかし、これらのことは、実際には、それほど容易ではない。

まず、本誌に限らず、医学系科学雑誌全体に共通する問題として最も大きな問題は、電子ジャーナル化に起因する読者離れである。私自身、印刷された雑誌の時代と比較して、本誌に目を通す機会は、明らかに減少した（さすがに編集委員長に就任してからは、印刷物時代よりも、むしろ多くなっているが）。電子ジャーナル化は、もはや避けられない時代の潮流であるし、これによって削減された予算は膨大である。以前のような印刷物の出版の復活を望む声は多いが、一方では、徐々に、印刷物が出版されていたことを知らない世代が増えつつあることも事実である。電子ジャーナル化を受け入れることは、もはや我々の世代の務めであることは、間違いない。

ところで、日本臨床細胞学会は、医師会員と技師会員で構成されている。学会としては、比較的特徴的な構成となっている。医師会員も、病理、産婦人科、消化器科、呼吸器科、泌尿器科、歯科口腔外科など、多種多様な臨床系分野が所属している。このことは、例えば日本病理学会の会員が病理医、日本産科婦人科学会が産婦人科医で構成されていることと、大きく異なる。一方、近年の本誌への投稿者の傾向を考えた場合、細胞検査士、特に若い検査士からの投稿数が増えていることに気づかされる。このことは、これからの細胞診断学の発展を考えたとき、非常に心強い思いがする。しかし、この状況で、例えば日本癌治療学会誌のように、インパクトファクター獲得を目指し、本誌を英文化することは、少なくとも現時点では、不可能と考えられる。そもそも、ACTA CYTOLOGICA 誌との関連性にも問題を生じる。一方で、採択率だけに着目した場合、仮に科学的に価値の低い論



文が多く掲載されることになれば、それが、結果的に本誌が見向きもされなくなる結果を招きかねない。

これからの日本臨床細胞学会雑誌は、どこに向かうべきなのか。この答えは、学会全体で考えなければならない問題であり、一朝一夕に出せる答えではない。日本臨床細胞学会雑誌は、学会の意向を反映させる雑誌であるから、その方向性も、学会の思想を色濃く反映したものと考えるべきである。そのため、単に編集委員会だけで考えれば済む問題ではない。今後、学会全体で、方向性が議論され、見いだされるべきである。

今後、日本臨床細胞学会の動向や、方向性に関する議論の推移を見守りながら、それを学会雑誌に反映させていくことが、我々編集委員会に課せられた課題である。一方、日々、投稿されてくる論文にも誠意をもって対応しなければならない。これは、目新しいことではなく、今までにも、脈々と諸先輩の先生方が積み重ねてこられた作業である。しかし、最近の投稿者とのやりとりを介して、ややもすれば、我々編集に従事する担当者を、掲載を阻む絶対的権威者のように捉え、査読結果に真摯に向かい合って頂けない投稿者に関する意見が、編集委員・査読委員の多くから寄せられている。そのため、あらためて申し上げておきたい。編集・査読に従事される方々は、それぞれ多忙な時間を割いて、投稿されてくる論文を読み、掲載に導くためのお手伝いをして頂く、言ってみれば、投稿者にとっての強力な味方である。当然、投稿者の自由と尊厳は擁護されなければならない。投稿された論文全体、場合によっては日本語表現にまでコメントされ、なるべく投稿者が理解しやすい指摘を行うように、心がけて頂いている。また、本誌は、画像が極めて重要な情報の一つであるため、画像の質にも厳しい指摘が及ぶ場合がある。指摘を受けた投稿者は、内心では、指摘が辛く感じられることは、私自身も、何度もの経験で知っている。私は、そのようなときは、3日ほど、なにも手を付けず、寝かしておくことが多かった。その間に冷静になり、受けた指摘の意味も分かるようになり、解決策も浮かんでくることが多かった。この作業を繰り返し、気が付けば、より客観性を持った、素晴らしい論文にして頂いてきた。編集・査読委員の全員にも同じ経験があり、今、編集・査読作業に携わって頂いているのは、その経験を、投稿者に還元しているのに他ならない。

一方では、編集・査読委員は、共著者ではない。特に、表現を修正する際に、投稿論文全体に赤字で修正を入れることは、不可能である。また、文章の構成や内容に踏み込んだ指摘は可能だが、改善案までを示すことはない。そのため、投稿される際には、ぜひ、共著者全員の指導や意見を反映したものを投稿して頂きたい。

若い投稿者とともに、経験を積んだ細胞検査士や臨床医からの原著論文を、積極的に呼び込んでいきたいと考えている。今後、全国学会、地方会で、編集委員が、投稿を促す活動を行わせて頂く予定である。ぜひとも、ご協力を頂きたい。さらには、海外の雑誌、特に ACTA CYTOLOGICA 誌との連携も重要と考えている。今後の細胞診断学領域で、ますます日本人が活躍してもらいたいと願っている。そして、日本で培われた英知が、世界中で役立つために、日本臨床細胞学会誌の編集委員長に就任させて頂いたことを機会に、ACTA CYTOLOGICA 誌への論文投稿数が増える支援も、積極的に行っていく覚悟である。

日本臨床細胞学会雑誌投稿規定

1. 投稿資格

原則として投稿者は共著者も含め日本臨床細胞学会会員に限る。ただし、画像診断、治療などに直接関わった医師(2名以内)はこの限りではない。

2. 掲載論文

- 1) 論文の種別は総説、原著、調査報告、症例報告、特集、短報、読者の声である。
- 2) 投稿論文は臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので、他誌に発表されていないものに限る。
- 3) 論文作成に際しては、プライバシー保護の観点も含め、ヘルシンキ宣言(ヒトにおける biomedical 研究に携わる医師のための勧告)ならびに人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(文部科学省、厚生労働省(平成26年12月22日、平成29年2月28日一部改正))が遵守されていること。
※これらの指針は、学会誌1号に記載。
- 4) 論文の著作権は本学会に帰属し、著者は当学会による電子公開を承諾するものとする。セルフ・アーカイブ(自身のホームページ、所属機関のリポジトリなど)においては表題、所属、著者名、内容抄録の公開は学会誌の発行の後に認められる。
- 5) 論文投稿に際し、著者全員の利益相反自己申告書(様式2)を添付すること。なお、書式は <http://jscc.or.jp/coi/> からダウンロードし用いる。この様式2の内容は論文末尾、文献の直前の場所に記される。規定された利益相反状態がない場合は、同部分に、「筆者らは、開示すべき利益相反状態はありません。」などの文言を入れる。

3. 投稿形式

- 1) 原則として“電子投稿”とする。
- 2) 電子投稿の際には、以下のサイトからアクセスする。
<https://www.editorialmanager.com/jscc/>

4. 執筆要項

- 1) 文章と文体
 - (1) 用語は和文または英文とする。
 - (2) 平仮名、常用漢字、現代仮名づかいを用いる。ただし、固有名詞や一般に用いられている学術用語はその限りではない。英文での投稿原稿の場合も和文の

場合に準ずる。

- (3) 度量衡単位は cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg など CGS 単位を用いる。
 - (4) 外国人名、適当な和名のない薬品名、器具および機械名、または疾患名、学術的表現、科学用語については原語を用いる。大文字は固有名詞およびドイツ語の名詞の頭文字に限る。
 - (5) 医学用語は日本臨床細胞学会編集の「細胞診用語解説集」に準拠すること。また、その略語を用いても良いが、はじめに完全な用語を書き、以下に略語を用いることを明らかにする。
- 2) 原稿の書き方(電子投稿でない場合)

原稿はワープロを用い、A4判縦に横書きし、1行25字で20行を1枚におさめる。上下左右に30mm程度の余白をとり、左揃えとする。文字は12ポイント相当以上を用いるのが望ましい。
 - 3) 電子ファイル

以下の電子ファイル形式を推奨する。
Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (英文のみ), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

なお、写真の解像度は、雑誌掲載サイズで300dpi以上が目安である。
 - 4) 総説・原著・調査報告・症例報告・短報論文の様式

(1) 構成

タイトルページ、内容抄録、索引用語(key words)、本文、利益相反状態の開示、英文抄録、文献、写真、図、表の順とする。原稿には通し頁番号をふる。タイトルページ(1枚目)には、当該論文における修正稿回数(初回、修正1など)、論文の種別(原著、症例報告、短報など)、和文の表題(50字以内)、著者名、所属のほか論文別刷請求先、著作権の移譲と早期公開に対する同意を明記する。2枚目には内容抄録、索引用語を記載する。本文は内容抄録とは別に始める。

(2) 著者

著者名は直接研究に携わった者のみに限定する。著者数は以下のとおりとし、それ以外の関係者は本文末に謝辞として表記されたい。

原著：12名以内

調査報告：10名以内
 症例報告：10名以内
 短報：6名以内
 総説：1名を原則とする

(3) 内容抄録

短報を除いて500字以内にまとめ、以下のような小見出しをつける。

原著と調査報告：目的, 方法, 成績, 結論
 症例報告：背景, 症例, 結論
 総説と特集：論文の内容に応じて適宜設定

(4) 索引用語

論文の内容を暗示する英語の単語 (Key words) を5語以内で表示する。原則として、第1語は対象、第2語は方法、第3語以下は内容を暗示する単語とする。

key words 例：

胆嚢穿刺吸引細胞診—胆嚢癌4例の細胞像と組織像—

Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology
 肝細胞癌についての1考察

Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review
 喀痰中に卵巣明細胞腺癌細胞が見出されたまれな1例

Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum,
 Metastasis, Case report

(5) 本文および枚数制限

a. 原著・総説・調査報告

本文, 文献を含め10,000字以内 (A4判20頁) とする。

図・表 (写真を含まず) は, 10枚以内とする。
 写真の枚数に制限はないが, 必要最少限の枚数とする。

b. 症例報告

本文, 文献を含め6,000字以内 (A4判12頁以内) とする。

図・表 (写真を含まず) は, 5枚以内とする。
 写真の枚数に制限はないが, 必要最少限の枚数とする。

c. 短報

出来上がり2頁以内とする。

写真は2枚以内 (組み合わせは各々2枚以内),
 図表は計1枚までとする。

写真2枚と図表1枚が入った場合の本文 (I. はじめに〜) と文献は1,500字程度 (A4判3頁) を目安とする。

(6) 英文抄録

本文とは別紙に、表題の英訳およびローマ字つづりの著者名、所属の英文名、および抄録内容を記す。著者名のあとに、以下の略号を用いてそれぞれの称号あるいは資格を付記する。

医師：M. D., M. D., M. I. A. C., M. D., F. I. A. C.

歯科医師：D. D. S. とし、それ以外の称号あるいは資格は医師と同様に付記する。

臨床検査技師：M. T., C. T., J. S. C., C. T., I. A. C., C. T., C. M. I. A. C., C. T., C. F. I. A. C.などを記載する。抄録内容は英語で200語以内 (ただし表題、著者名、所属名はのぞく) とし、以下のような小見出しをつけてまとめる。

原著と調査報告：Objective, Study Design, Results, Conclusion

症例報告：Background, Case (または Cases), Conclusion

総説：論文の内容に応じて適宜設定

短報：小見出しをつけずに100語以内にまとめる

(7) 文献

a. 主要のものに限る。

原著・特集・調査報告：30編以内

症例報告：15編以内

短報：5編以内

総説：特に編数の制限を定めない

b. 引用順にならべ、本文中に肩付き番号を付す。

c. 文献表記はバンクーバー・スタイルとし、誌名略記について和文文献は医学中央雑誌刊行会、英文文献はIndex Medicusに準ずる。参考として以下に例を記載する。

【雑誌の場合】

著者名 (和名はフルネームで、欧文名は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで6名まで表記し、6名をこえる場合はその後を“・ほか”, “et al”と略記する)。表題 (フルタイトルを記載)。雑誌名 発行年 (西暦); 巻: 頁-頁。

【単行本の場合】

著者名, 表題, 発行地: 発行所; 発行年 (西暦)。なお、引用が単行本の一部である場合には表題の次に編者名, 単行本の表題を記し, 発行年, 頁-頁。他者の著作物の図表を論文中で使用する場合は, 原著者 (あるいは団体) より投稿論文を電子公開することを含めた許諾が必要で, これを証明する書類を添付する。

(8) 図・表・写真

a. 図, 表は英文で作成する。写真, 図, 表はPhoto.

1, Fig. 1, Table 1 などのようにそれぞれの番号をつけ、簡単な英文のタイトルと説明を付記する。

- b.本文中には写真，図，表の挿入すべき位置を明示する。
- c.顕微鏡写真には倍率を付する。光顕写真（細胞像，組織像）の倍率は撮影時の対物レンズ倍率を用いるが，写真へのスケールの挿入が好ましい。電顕写真については撮影時の倍率を表示するか，または写真にスケールを入れる。

5) 特集論文の様式

一つのテーマのもとに数編の論文（原著ないし総説）から構成される。特集企画者は，特集全体の表題（和文および英文）および特集の趣旨（前書きに相当）を1,200字以内にまとめる。原稿の体裁は原著・総説に準じる。

6) 読者の声

以上の学術論文に該当しないもので，本誌掲載論文に関する意見，本学会の運営や活動に関する意見，臨床細胞学に関する意見を掲載する。ただし，他に発表されていないものに限る。投稿は以下の所定の書式・手順による。

- (1) 表題は和文50字以内とする。表題に相当する英文も添える。

改行して本文を記述する。

末尾に著者名（資格も付記），所属施設名，同住所の和文および英文を各々別行に記す。著者は1名を原則とする。文献は文末に含めることができるが，表・写真・図を用いることはできない。これらの全てを1,000字以内（A4判2頁以内）にまとめる。

- (2) 掲載の可否は編集委員会にて決定する。なお，投稿内容に関連して当事者ないし第三者の意見の併載が必要であると本委員会が認めた場合には，本委員会より該当者に執筆を依頼し，併列して編集することがある。

7) 英文投稿の場合

A4縦にダブルスペースで10頁以内とする。

和文抄録を付し，図・表その他は和文の場合に準ずる。

5. 別 刷

別刷を希望するときは，校正時に部数を明記して申し込む。

6. 論文の審査

投稿論文は編集委員会での審査により採否を決定し，その結果を筆頭著者に通知する。審査にあたっては査読制をとる。原稿の組体裁，割付は編集委員会に一任する。

7. 校 正

著者校正は原則として初校において行う。出版社から送付された校正は，必ず3日以内に返送する。校正担当者が筆頭著者以外の時は，校正の責任者と送り先を投稿時に明記する。校正では間違いを訂正する程度とし，原稿にない加筆や訂正は行えない。

8. 掲 載 料

出来上がり4頁までを無料とし，超過頁の掲載料は著者負担とする。白黒写真製版代およびカラー写真印刷代は無料とするが，その他の図版費（図の製版代），英文校正料，別刷代は著者負担とする。また，邦文論文の英文校正料と別刷代については半額免除とし，英文論文の場合は図版費を含めて掲載料を免除する。

9. 依頼原稿

依頼原稿は，総説または原著の形式とし，査読を必要とせず，著者校正を行う。依頼原稿の著者は，日本臨床細胞学会会員に限らない。図・表・写真に関しては，和文での作成を許容する。また掲載料に関しては全額免除とする。

10. 本規定の改定

投稿規定は改定することがある。

(平成4年6月一部改定)	(平成23年8月一部改定)
(平成6年6月一部改定)	(平成24年4月一部改定)
(平成9年6月一部改定)	(平成26年5月一部改定)
(平成11年6月一部改定)	(平成26年11月一部改定)
(平成21年5月一部改定)	(平成26年12月一部改定)
(平成21年6月一部改定)	(平成27年3月一部改定)
(平成21年11月一部改定)	(平成29年1月一部改定)
(平成22年4月一部改定)	(平成29年11月一部改定)
(平成22年9月一部改定)	(平成30年11月一部改定)
(平成23年3月一部改定)	(平成31年3月一部改定)

添付1 Acta Cytologica への投稿について

投稿規定は www.karger.com/acy に明記されていますのでこれに従って下さい。従来は国内での査読を行っていましたが，直接投稿していただくことになりました。

添付2 以下の2項目は毎年の1号に掲載する。

- ・ヘルシンキ宣言
- ・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針
平成26年12月22日
平成29年2月28日一部改正

NOTICE TO CONTRIBUTORS

1. Authorial responsibility :

All authors of this journal including coauthors must be members of the Japanese Society of Clinical Cytology. However, except for whom (within 2 authors) involved in the diagnosis, treatment, and so on.

2. Categories of articles published :

1) The categories of articles published in this journal are *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports*, *special articles*, *brief notes*, and *reader's voices*.

2) The submitted articles should contribute to the advancement of clinical cytology and must be submitted exclusively to this journal.

3) Authors must observe the Declaration of Helsinki (recommendations for physicians conducting biomedical studies in humans) and the Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Ministry of Health, Labour and Welfare, March, 2015), including privacy protection.

* These guidelines appear in the first issue of the journal.

4) Copyright for articles published in this journal will be transferred to the Japanese Society of Clinical Cytology, and the authors must agree that the articles will be published electronically by the Society. The authors are permitted to post the title, affiliations, authors' names and the abstract of their article on a personal website or an institutional repository, after publication.

5) All authors will be required to complete a conflict of interest disclosure form as part of the initial manuscript submission process. The corresponding author is responsible for obtaining completed forms from all authors of the manuscript. The form can be downloaded from (<http://jscc.or.jp/coi/>) The statement has to be listed at the end of the text.

3. Submission style :

1) As a general rule, manuscripts should be submitted electronically.

2) For initial submission, please access the site below.

(<https://www.editorialmanager.com/jjscc/>)

4. Instructions for manuscripts :

1) Text and writing style

(1) Manuscript is to be written in Japanese or English.

(2) Hiragana, daily use kanji and contemporary Japanese syllabic writing should be used, except for proper nouns and generally used technical terms. English manuscripts should be prepared essentially in the same manner as Japanese manuscripts.

(3) Weights and measures are expressed in CGS units (cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg, etc.).

(4) Names of non-Japanese individuals, drugs, instruments / machines, or diseases that have no proper Japanese terms, academic expressions and scientific terms are to be written in the original language. Upper case letters should be used only for proper nouns and the first letter of German nouns.

(5) Medical terms should be in accordance with the "Saibou-shinn yougo kaisetsu-syu (Handbook of cytological terminology)" edited by the Japanese Society of Clinical Cytology. Abbreviations of medical terms may be used, but the terms should be spelled out in full at their first occurrence in the text and the use of abbreviations is to be mentioned.

2) Manuscript preparation

Manuscripts are to be prepared using a word processor on vertical A4-size paper, with 25 characters per line and 20 lines per page. The top, bottom and side margins should be approximately 30 mm, and paragraphs left-justified. Twelve point or larger font size is preferable.

3) Electronic files

The following electronic file formats are recommended. Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (English only), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

A minimum resolution of 300 dpi size is required for photographs for publication.

4) Style of *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports* and *brief notes*.

(1) Manuscript format

The parts of the manuscript are to be presented in the following order : Title page, abstract, key words, text, conflict of interest disclosure, English abstract, references, photographs, figures and tables. The pages of the manuscript should be numbered consecutively. The number of revisions (initial submission, first revision, etc.), the category of paper (*original article, case report, brief note*, etc.), Japanese title (not exceeding 50 characters), name (s) of author (s), authors' affiliations, address for reprint requests, and agreement of copyright transfer and early publication must be clearly written on the title page (the first page).

The abstract and key words are to be written on the second page. There should be a separation between the abstract and the start of the text.

(2) Authors

Authors will be limited to persons directly involved in the research. The number of authors is to be as follows, and other persons involved should be mentioned in the *Acknowledgments* section at the end of the paper.

Original articles : no more than 12

Investigation reports : no more than 10

Case reports : no more than 10

Brief notes : no more than 6

Review articles : just one author, as a general rule

(3) Abstract

The text of the abstract should not exceed 500 characters, except for *brief notes*, and the headings should be comprised of the following.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Review articles and *special articles* : headings are to be selected according to content.

(4) Key words

No more than 5 key words indicative of the content of the paper are to be supplied. As a general rule, the first term usually indicates the subject, the second term, the method, the third term and beyond, the content.

[Titles followed by examples of appropriate key words in parentheses]

Examples of Key words :

– Gallbladder aspiration cytology — Cytological and histological findings in four cases of gallbladder cancer — (Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology)

– A review of hepatocellular carcinoma (Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review)

– A rare case of ovarian clear cell adenocarcinoma cells detected in sputum (Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum, Metastasis, Case report)

(5) Text and page limitations

a. *Original articles, review articles, and investigation reports* :

The manuscript should not exceed 10,000 characters (20 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 10 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

b. *Case reports* :

The manuscript should not exceed 6,000 characters (12 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 5 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

c. *Brief notes* :

A brief note should not exceed two printed pages.

No more than two photographs (or combinations of no more than two photographs) and one figure or table can be included.

If two pictures and one figure or table are included, text (I. Introduction ...) and references should be approximately 1,500 characters (3 pages of A4 size).

(6) English abstract

An English translation of the title, authors' names in Roman letters, authors' affiliations in English, and English abstract should be given on a page separate from the text. The authors' degrees/qualifications are to be written after their names using

the following abbreviations.

For physicians : MD ; MD, MIAC ; MD, FIAC.

For dentists : DDS, with other degrees or qualifications abbreviated the same as for physicians.

For clinical laboratory technologists : MT ; CT ;

JSC ; CT, IAC ; CT, CMIAC ; CT, CFIAC.

The text of the abstract should not exceed 200 words (exclusive of the title, authors' names and affiliations), and the following headings are to be used.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Review articles : headings should be selected according to their content.

Brief notes : abstracts for brief notes should consist of no more than 100 words and no headings are to be used.

(7) References

- a. Only major references are to be listed.

Original articles, special articles, and investigation reports : no more than 30 titles

Case reports : no more than 15 titles

Brief notes : no more than 5 titles

Review articles : no limit

- b. References are to be listed in the order in which they appear in the text, and indicated by superscript numbers in the text.

- c. The references should be listed in the Vancouver style, and the journal abbreviations in Japanese and English references according to the Japan Medical Abstracts Society and Index Medicus, respectively. Examples are shown below.

For journals :

Name (s) of the author (s) (full names for Japanese names ; for European names, surnames of the first 6 authors spelled out, with initials for the rest of the name, and other authors' names abbreviated "et al"). Title (full title should be given). Name of the journal (space) Year of publication ; Volume ; Page numbers.

For books :

Name (s) of the author (s). Title. Place of

publication ; Name of the publisher ; Year of publication (If a citation is just one part of an independent book, the title should be followed by the name of the editor, the title of the book, and the year of publication). Page numbers.

If figures and tables from another author's work are used in the article, permission for publication, including electronic publication, must be obtained from the original author (or organization), and the documents certifying this permission must be attached.

(8) Figures, tables and photographs

- a. Figure and table titles are to be written in English. Photographs, figures and tables are to be numbered thus : Photo. 1, Fig. 1, Table 1, etc. Provide simple titles and explanations in English.
- b. Clearly state where the photographs, figures and tables should be positioned in the text.
- c. Magnifications are to be stated for micrographs. The magnification of the objective lens at the time the photograph was taken will be used as the magnification for photomicrographs (photographs of cells or tissues). Authors are recommended to use scale bars in the photograph. For electron micrographs, the magnification at which the photograph was taken should be stated or scales included in the photograph.

5) Style of special articles

Special articles are composed of several papers (*original articles* or *reviews*) on a single topic. The planners of *special articles* need to prepare the title of the whole special issue (in Japanese and English) and a synopsis (equivalent to an introduction) of no more than 1,200 characters. The style of *special articles* should be the same as for *original articles* and *review articles*.

6) Reader's voices

Submissions which do not fit the above-described categories for scientific papers, including opinions on papers already published in the journal, the operation and activities of the Japanese Society and Clinical Cytology, are also published, but only if they have not been presented elsewhere. Submissions should be in accordance with the following prescribed form and procedure.

- (1) The title is not to exceed 50 characters, and a corresponding English title should be provided.

The text should be started on a new line.

At the end of the text, the name (s) of author (s) (with the authors' qualifications), institutional affiliations and addresses should be written in Japanese and English on separate lines. As a general rule, there should be just one author. References can be added at the end, but no tables, pictures and figures. All of the above should be no more than 1,000 characters (no more than 2 pages of A4 size).

- (2) The editorial board will decide whether a submission will be published. If the Committee finds it necessary to also publish the opinion of a person referred to in the manuscript or a third party in regard to the content of the paper submitted, the Committee will request that the person concerned write it, and the two will be published together.

7) English manuscripts

English manuscripts are to be written double-spaced on A4 paper, and should not exceed 10 pages.

A Japanese abstract should be provided, and figures, tables, etc. are to be prepared in the same manner as the Japanese manuscript.

5. Reprints :

When reprints are desired, the author should state the number of copies to be ordered when returning the first galley proof.

6. Review of the manuscript :

Whether a manuscript submitted for publication will be accepted is determined by a review conducted by the editorial board, and the first author will be notified of the results. The referee system is used to conduct these reviews. The editorial board will be responsible for the layout and format used in printing the manuscript.

7. Proofreading :

The publisher will send the first galley proof to the first author, who should check and return it within three days. When the person responsible for proofreading is someone other than the first author, the person's name and address must be clearly stated when the manuscript is submitted. Only errors can be corrected on proofs. Nothing that is

not already in the manuscript can be added or corrected.

8. Publishing fee :

Authors will be charged for space in excess of 4 printed pages. There will be no charge for the cost of printing black-and-white and color photographs. However, authors will be charged for plate making for figures other than photographs, English proofreading and reprints. In addition, half the charges for English proofreading and reprints of Japanese articles will be waived, and the publishing fees, including plate making charges, for English articles will be waived.

9. Revision of these rules :

The rules for submitting manuscripts may change.

(Partial revision June 1992)

(Partial revision June 1994)

(Partial revision June 1997)

(Partial revision June 1999)

(Partial revision June 2009)

(Partial revision November 2009)

(Partial revision April 2010)

(Partial revision September 2010)

(Partial revision March 2011)

(Partial revision April 2012)

(Partial revision May 2014)

(Partial revision November 2014)

(Partial revision December 2014)

(Partial revision March 2015)

(Partial revision January 2017)

(Partial revision November 2018)

(Partial revision May 2019)

Appendix 1. Submission of manuscripts to *Acta Cytologica*

Please go the new *Acta Cytologica* website (www.karger.com/acy) and read guidelines for manuscript submission. Submission of manuscripts to the Japanese Editorial Office for preparatory review has been abolished.

Appendix 2. The following 2 items will appear in the first issue of every year.

- Declaration of Helsinki
- Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects
March, 2015

日本臨床細胞学会編集委員会 (令和元年~3年)

委員長: 矢納 研二					
担当理事: 大平 達夫	竹島 信宏	三上 芳喜			
委員: 伊藤以知郎	河原 明彦	九島 巳樹	黒川 哲司	近藤 英司	品川 明子
田中 良太	長尾 俊孝	二村 梓	野村 秀高	則松 良明	廣川 満良
古田 則行	前田 宜延	的田 眞紀	棟方 哲	柳井 広之	
幹事: 大沼 利通	西川 武				
査読委員: 青木 裕志	明石 京子	明瀬 光里	秋葉 純	浅見 志帆	阿部 仁
阿部 彰子	阿部 英二	安倍 秀幸	新井 正秀	荒木 邦夫	有田 茂実
有廣 光司	有安 早苗	五十嵐 誠治	伊倉 義弘	池上 雅博	池田 聡
池田 純一郎	池田 徳彦	池畑 浩一	池本 理恵	伊古田 勇人	石井 真美
石岡 伸一	石川 雄一	石田 和之	出馬 晋二	磯西 成治	井谷 嘉男
市村 友季	伊東 恭子	伊藤 崇彦	伊藤 雅文	稲垣 宏	稲山 嘉明
井野 元智恵	今井 裕	今井 律子	今野 元博	今村 好章	井村 穰二
入江 準二	岩崎 雅宏	岩瀬 春子	岩田 卓	岩屋 啓一	上田 和
宇佐 美知香	碓井 宏和	白田 実男	内田 克典	内山 智子	宇津木 久仁子
梅澤 敬	浦野 誠	卜部 理恵	卜部 省悟	江口 正信	蝦名 康彦
遠藤 浩之	小穴 良保	及川 洋恵	大石 徹郎	大井 恭代	大金 直樹
大亀 真一	大久保 文彦	大崎 博之	大崎 能伸	大城 久	太田 善夫
大谷 博	大塚 重則	大沼 利通	大野 喜作	大橋 隆治	大原 樹
大森 真紀子	岡 輝明	小賀 厚徳	岡田 真也	緒方 衝	岡 俊郎
岡部 義信	岡本 聡	岡本 三四郎	岡本 吉明	小倉 豪	小椋 聖子
刑部 光正	尾崎 敬	尾崎 聡	小田 義直	小野里 香織	小野瀬 亮
尾松 公平	小山 徹也	甲斐 敬太	利部 正裕	垣花 昌俊	覚野 綾子
笠井 孝彦	笠松 高弘	梶原 直央	梶原 博	加勢 宏明	片岡 竜貴
片岡 史夫	片山 博徳	香月 奈穂美	加戸 伸明	加藤 拓	加藤 一喜
加藤 智美	加藤 友康	門田 球一	金尾 祐之	金山 清二	金山 和樹
金子 千之	鹿股 直樹	神尾 多喜浩	鴨井 青龍	川崎 隆	川崎 朋範
川瀬 里衣子	川名 敬	河野 光一郎	河野 哲也	河原 邦光	河村 憲一
川村 直樹	神田 浩明	菊池 朗	木佐貫 篤	岸野 万伸	鬼島 宏
岸本 浩次	北澤 理子	北澤 莊平	木下 勇一	木村 文一	喜友名 正也
清川 貴子	草苺 宏有	草野 弘宣	久慈 志保	串田 吉生	工藤 明子
久布 白兼行	熊木 伸枝	久山 佳代	黒瀬 圭輔	黒田 敬史	黒田 直人
黒田 一	孝橋 賢一	小材 和浩	小島 淳美	小塚 祐司	小林 佑介
小林 裕明	小林 博久	小林 陽一	小宮 山慎一	小山 芳徳	近藤 哲夫
近内 勝幸	齋藤 生朗	嵯峨 泰	坂谷 貴司	坂本 優	佐川 元保
桜井 孝規	佐々木 陽介	佐々木 素子	笹野 公伸	佐治 晴哉	佐藤 誠也
佐藤 正和	佐藤 美紀子	佐藤 慎也	佐藤 康晴	佐藤 由紀子	郷 久晴朗
澤田 達男	塩澤 哲	澁木 康雄	渋田 秀美	澁谷 潔	渋谷 信介
島田 宗昭	島田 啓司	清水 和彦	清水 健	清水 道生	清水 禎彦
下釜 達朗	白石 泰三	白波瀬 浩幸	菅井 有	須貝 美佳	杉田 好彦
杉山 裕子	酒々井 夏子	鈴木 雅子	鈴木 淳	鈴木 直	鈴木 正人

鈴木美和	関田信之	芹澤昭彦	園田顕三	駄阿 勉	多比良朋希
高倉 聡	高瀬頼妃呼	高田恭臣	高野忠夫	高野浩邦	高野政志
高橋顕雅	高橋芳久	高橋恵美子	鷹橋浩幸	高松 潔	田口雅子
田口健一	竹井裕二	武田麻衣子	竹原和宏	田尻琢磨	橘 啓盛
楯 真一	田中京子	田中綾一	田中一朗	田中尚武	田中浩彦
棚田 諭	谷川輝美	谷口智子	谷山清己	田沼順一	田原紳一郎
玉手雅人	田丸淳一	千酌 潤	塚田ひとみ	辻村 亨	津田 均
土田 秀	筒井英光	角田 肇	寺井義人	寺田倫子	寺畑信太郎
寺本典弘	寺本瑞絵	土居正知	田路英作	徳田雄治	渡具知 克
徳永英樹	戸澤晃子	栃木直文	富永英一郎	豊田進司	鳥居貴代
内藤子来	内藤嘉紀	永井雄一郎	中泉明彦	中尾佳史	長阪一憲
長坂徹郎	中里宜正	中澤久美子	長嶋 健	永瀬 智	中塚伸一
仲村 勝	中山富雄	中山宏文	中山 淳	南部雅美	新倉 仁
西川 鑑	西川 武	錦見恭子	西田直代	西野幸治	西村理恵子
西森 誠	西山憲一	布引 治	野澤真由	能登原憲司	野中道子
野村弘行	野本靖史	橋口真理子	長谷川清志	秦 美暢	畑中一仁
服部 学	馬場洋一郎	羽原利幸	濱川真治	林 茂徳	林 真也
林 俊哲	原 由紀子	原田憲一	坂東健次	阪埜浩司	東田太郎
東 美智代	樋口佳代子	飛田 陽	秀島克巳	平沢 晃	平田哲士
平林健一	廣井禎之	廣島健三	廣田誠一	福島万奈	福島裕子
福屋美奈子	藤井丈士	藤田茂樹	伏見博彰	藤山淳三	藤原寛行
二神真行	古田玲子	古旗 淳	星 利良	星田義彦	細根 勝
堀江香代	堀 由美子	彭 為霞	前田純一	前田ゆかり	増田健太
増田しのぶ	町田知久	松井成明	松浦基樹	松澤こず恵	松下 宏
松田育雄	松田勝也	松永 徹	松林 純	松本光司	松本慎二
松元 隆	松山篤二	丸 喜明	丸川活司	丸田淳子	三浦弘守
三浦弘之	水野美香	三橋 暁	湊 宏	南 優子	南口早智子
三村明弘	宮井由美	宮城 淳	三宅真司	三宅康之	宮崎龍彦
宮嶋葉子	宮本朋幸	村田晋一	村田哲也	望月紀英	元井 亨
物部泰昌	森定 徹	森下由紀雄	森 康浩	森村 豊	八重樫伸生
安岡弘直	安田政実	矢田直美	柳田 聡	矢野恵子	矢野博久
山上 亘	山口知彦	山口 浩	山口 倫	山崎奈緒子	山下 博
山田隆司	山田 隆	山田麻里沙	山田恭輔	山田鉄也	山田範幸
山元英崇	山本晃人	矢持淑子	横井豊治	横尾英明	横瀬智之
横山俊朗	吉岡治彦	吉田 勤	吉田浩一	吉野 潔	吉見直己
米田 操	米山剛一	梁 善光	和田直樹	渡部 洋	渡邊 純
渡辺寿美子	渡 邊みか				

(50音順)

令和元年十一月二十二日発行

編集兼
発行人

公益社団法人
日本臨床細胞学会
代表者 矢納 研二

〒100-1062 東京都千代田区神田駿河台二丁目一
番一
駿河台サンライズビル三階
公益社団法人 日本臨床細胞学会
発行所
電話〇三(五七七)四六八〇 振替〇〇一〇一〇一三五五四五